

令和3年度第3回市政懇談会 会議録（要旨）

【日 時】 令和3年4月14日（水） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】 小野ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 小野地区振興対策委員会会長 : 末田 昭男 小野地区コミュニティ推進協議会会長 : 村谷 啓介 JA女性部小野支部長 : 志賀 順子 自治会連合会会長 : 清水 隆司 小学校保護者 : 藤田 陽子 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○小野小学校の存続について 【振興対策委員会会長】 ・小野小学校が存続されるのかが一番に気になっている。中学校の統廃合は、クラブ活動などの関係でやむを得ないの残念であった。小学6年間だけは、他地区ではなく、地元で過ごして欲しい。 【JA女性部小野支部長】 ・子どもが地域にいるという環境は、地域住民にとっても大切である。 【小学校保護者】 ・子どもたち自身も、保護者以上に不安に感じているようだ。 ・少人数学校の良さを感じてはいるが、一方で、市街地の子どもたちと一緒に、大人数で授業を受ける経験もさせたい。市街地の子どもたちとの交流をもっと進めていくことはできないか。 【市長】 ・子どもたちの笑い声は、地域に元気をもたらすと思っている。 ・小学校校区の再編は、検討すべき時期に来ている。コストありきではなく、子どもたちに何を、どう学ばせるのか、教育環境を整えることを考え、検討する必要がある。通学時の移動距離も、子どもたちに負担をかけないようにしなければならない。先進

事例を参考にしたり、保護者、地域の方々にご意見を聴きながら丁寧に進めたい。

- ・今年度、GIGA スクール構想を実現するため、タブレット端末を一人一台ずつ貸与する。コロナ禍で子どもたちの教育環境は大きな転換期を迎えている。将来的には、授業がオンライン化され、他の学校と合同で授業を行うなど、多様な形態をとることが可能になるのではないかと考えている。

○地籍調査について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・地域の活性化、インフラを整備するには、地籍調査をしっかりとしておくことが必要だ。調査の推進を要望する。

【市長】

- ・地籍調査については、確実に進めていく。

○審議会等の委員の男女比率に関して

【JA 女性部小野支部長】

- ・審議会等の委員の男女比率に関して、どう考えているのか。比率を重視しすぎるのはいかがなものか。

【市長】

- ・女性の活躍は社会を良くしていくと思っているが、すべてにおいて男女比率を同じにすることが重要ではなく、それぞれの組織等の目的に応じた形をとることが大切だと思っている。
- ・市審議会の委員については、市民の意見を幅広く聞くために、男女比率を意識することは重要だと考えている。

○トビイロウンカ被害への助成

【JA 女性部小野支部長】

- ・トビイロウンカ被害への助成については感謝している。ただ、申請時、市が所有しているはずの書類の写しの提出を求められた。省略できなかったのか。

【市長】

- ・申請書類については確認する。ご負担をおかけして申し訳ない。

○小野地区の将来、振興について

①「多極ネットワーク型コンパクトシティ」「中山間地域」について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・多極ネットワーク型コンパクトシティ構想は、市の都市計画において、現在どのような位置付けで、将来の北部地域の姿についてどう考えているのか。
- ・北部6地域で方向性などを議論する必要があると思っている。

【自治会連合会会長】

- ・中山間地域についての市長の考え方をしりたい。
- ・10年先、自分たちの子どもが小野地区で暮らしたいと思ったときに、地区が存続しているのか、気になっている。
- ・北翔六星というグループを結成し、北部地域の活性化につながるよう活動している。北部地域全体で頑張っていきたい。市にも応援してほしい。

【市長】

- ・コンパクトシティの考え方は、行政もまだ整理しきれていないと思っている。中山間地域でも、将来に渡って住み続けていくことができる環境を整える必要があると考えている。
- ・売れる作物をつくり、稼げる農業を目指して、農業振興計画を策定する予定である。小野地区だけではなく、旧美東町など周辺のエリアも含めて検討したい。農業を志す若い人たちを支えていきたい。
- ・コロナ禍で、ワーケーションが注目され、中山間地域への関心が高まっており、都市部のクリエイティブな職業の人たちが自然豊かな地方で暮らすことを選択するなど、ライフスタイルが変化してきている。実際に、ときわ公園でワーケーションをしたいとの問い合わせもある。小野地区は、空港、高速道路、鉄道など立地がよい。高速通信網を整備し、人を呼び込める施策を進める必要があると思っている。
- ・下関市豊北地区では、地元の若い人たちがアウトドア会社と連携したレジャー事業を進めている。先進事例を参考にして、小野の自然、環境を生かした事業について、地域のみなさんと一緒にやっていけないかと考えている。

②旧小野中学校校舎の利活用

【振興対策委員会会長】

- ・竹資源を生かした商品の製造・販売拠点として「竹LABO（ラボ）」が入っている。地区でも活動を支えて、地域活性化につなげたい。

【市長】

- ・竹には将来性があると思っている。竹を使ったいろんなものがあるので、小野地区だけではなく、市街地の子どもたちにも触れさせたい。

③関係人口の創出

【自治会連合会会長】

- ・小野に移住する人を増やそうと婚活事業を行ったが、なかなか結果に結びつかない。小野は県内各地からのアクセスがよい。県内にはない人気の会員制の大型卸売小売店を誘致すれば、多くの人を呼び込めるのではないか。

【市長】

- ・小野地区は、中国自動車道、鉄道など交通の利便性が高い。さまざまなアイデアをいただきたい。

【小学校保護者】

- ・小野に新しい住民、家族を呼び込みたいと移住希望者と交流を持つための活動を行ったが、うまくいったとはいえない。地区の魅力をもっと発信する必要があると感じている。

【市長】

- ・全ふれあいセンターにおいて、WI-FI や端末等を準備している。使い方などをアドバイスするしくみをつくっているので、情報発信に活用してほしい。

④アクトビレッジ小野の活用

【振興対策委員会会長】

- ・「住まい」「仕事」を提供できないと移住につながらない。アクトビレッジ小野を、職業紹介なども行う地域振興の拠点施設にすることはできないのか。

【市長】

- ・小野地区の将来を考える際に、アクトビレッジ小野のあり方、活用方法は検討する必要がある。アイデアがあればご提案をお願いしたい。
- ・同じ湖畔であるときわ公園との住み分けを考える必要があると思う。
- ・自然を生かし、木材を利用したアスレティックなどの整備はどうだろうか。

⑤小野湖周遊道路の整備

【振興対策委員会会長】

- ・厚東川ダムを造成するときに、小野湖を一周できる道路の整備を要望していたが、まだ一部がつながっていない。

【市長】

- ・状況を確認させてほしい。道路はどう使うまでを考えて整備する必要があると考える。

⑥森林の活用

【自治会連合会会長】

- ・林業が少しずつではあるが盛んになってきている。周南市にある企業ではバイオマス発電所の建設が始まっている。勤務先では、森林の所有者と森林管理計画を立てたりしている。市では森林の活用についてどう考えているのか。

【市長】

- ・森林の活用は、カーボンニュートラルなど脱炭素社会を目指すなかで重要である。森林の管理及びその資源の活用を計画的に進める必要があると考えており、しっかりと進めていく。
- ・第5次総合計画には、すべての政策に環境問題の視点を入れていく必要があると考えている。森林の活用、適切な管理などについて、引き続きご提言をいただきたい。

⑦地域資源の活用（地域の魅力）

【小学校保護者】

- ・森林、木材を使ったアスレティックの整備は実現してほしい。
- ・小野湖周遊道路もよいが、船で周遊できたり、サイクリング道路の整備をしてもよいのでは。宇部市制施行100周年記念事業として、小野地区で気球を上げて、北部の大自然を空から眺めるというイベントの開催も面白いと思う。

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・小野湖を市の保養地、レイクフォレストとして位置付けるのはどうか。

【自治会連合会会長】

- ・宇部山岳会と協力して、平原岳などの縦走コースを整備しており、登山の魅力もある。

【市長】

- ・コロナ禍で、今、国内の良さが見直されている。小野地区では、山登り、カヌー、農業体験、そして茶畑があり、特徴ある魅力が多い。体験型ワーケーションにつなげていけないか、検討したい。

○お茶まつり

【JA 女性部小野支部長】

- ・今年のお茶まつりは、アクトビレッジ小野のみの開催で、茶畑で行わないのはなぜか。

【市長】

- ・茶畑まではバスを利用するが、車内等での3密を避けるためである。ご理解いただきたい。

【市長】

- ・この地区ならではの魅力や特徴を生かしながら、関係人口、交流人口を増やし、移住定住につなげていくために検討しなければならないさまざまな課題を共有できた。今後策定する計画等に生かしていきたい。